

# 名古屋の歴史 2017 全7回

名古屋市域の原始・古代から現代に至る歴史を編さんした「新修名古屋市史」の編集・執筆に携わった歴史の専門家による講演会を開催します。  
この機会に、名古屋の歴史にふれてみませんか？

講演時間 14:00~16:00(全会場共通)

**第1回 名古屋文化の礎**  
2018年 1月16日(火)  
～徳川家康・宗春と「温知政要」～

会場 緑文化小劇場 [446席] 052-879-6006  
地下鉄桜通線「徳重」下車 2番出口すぐ

講師 安田 文吉  
東海学園大学特任教授  
南山大学名誉教授

徳川時代の経済活動拠点の中心を名古屋に置くべく、徳川家康は天守閣に黄金の鯨を載せ、甚盤割りの町を作り、職人・商人を住ませ、ものづくり・物売りの基礎を築き、宗春は、「温知政要」二十一箇条を著述・刊行して、規制緩和による経済活動の活性化に成功した。もともと生産性の高い土地柄だったので、この政策は大成功。町人も農民も豊かになった。経済的実力を蓄えた町人は、以後、名古屋の経済・文化を一段と発展させ、名古屋繁華の原動力となった。

**第2回 名古屋の電気今昔**  
2018年 1月23日(火)

会場 南文化小劇場 [394席] 052-823-6511  
市バス(基幹1号系統、金山18号系統)「千竈通2丁目」から東へ徒歩3分

講師 浅野 伸一  
新修名古屋市史編さん執筆協力員、元新修名古屋市史資料編纂委員、元愛知県史編さん調査協力員、中部産業遺産研究会副会長

士族授産事業として名古屋地域初の電灯会社として名古屋電灯が発足し、明治40年代から大正期にかけ福沢桃介のリーダーシップのもと、大同電力・東邦電力という大規模電気事業へと発展をとげ、東邦電力、中部配電へと引き継がれた戦前の名古屋地区の電力業の発展過程をたどり、そのなかでの電灯の普及と暮らしの近代化、名古屋地区の産業発展やモダン都市名古屋の形成に果たした電力の役割などを、エピソードを交えて説明する。

**第3回 尾張ブランドの誕生**  
2018年 1月30日(火)  
～古代・中世のやきものと名古屋～

会場 名東文化小劇場 [356席] 052-726-0008  
地下鉄東山線「上社」下車 1番出口すぐ(上社ターミナルビル3階)

講師 瀬川 貴文  
名古屋市博物館  
学芸係長

尾張の窯業は、古墳時代に須恵器の生産として名古屋市域で興りました。その後、東部丘陵地帯に広がり、さらには瀬戸・常滑など、現在まで連続と続く日本有数の窯業の一大生産地として栄えました。尾張で焼かれたやきものは日本各地へ運ばれ、時には高級陶器としてもてはやされました。そのような、尾張のやきものについて、どのようなやきものが、なぜ作られたのか、「地味」だけど面白い、古代から中世のやきものの歴史と魅力についてお話しします。

**第4回 昭和戦時期までの自動車交通事業の歴史**  
2018年 2月6日(火)

会場 昭和文化小劇場 [300席] 052-751-6056  
地下鉄鶴舞線「川名」下車 2番出口から北へ徒歩2分

講師 松永 直幸  
鉄道史学会会員

自動車は技術的には鉄道より遅れて発達したが、道路があれば何時でも、どこへでも行けるその利便性の高さから、次第に鉄道を脅かす存在となっていった。本講演では、名古屋地方における自動車交通事業(バス、タクシー、貨物自動車)を対象として、昭和初期までの発達と、その後新興勢力としての会社乱立と整理統合を経て、ガソリン消費規制による抑制と戦時統合に至る歴史を明らかにしたい。

**第5回 近代名古屋が育てた「聖なる」文化の町城山覚王山と名古屋東山の歴史**  
2018年 2月14日(水)  
-昭和12年「田代土地区画整理組合鳥瞰図」を読む

会場 千種文化小劇場 [251席] 052-745-6235  
地下鉄桜通線「吹上」下車 7番出口から北へ徒歩3分

講師 高木 備太郎  
愛知淑徳大学  
非常勤講師

城山・覚王山の歴史は、明治末の釈迦の骨を祀る日泰寺創建に始まります。以来多くの寺と別荘と学校が集まって来ました。町を更に東部に発展させたのは名古屋の都市計画と田代土地区画整理事業でした。ランドマークとしての昭和塾堂が建設され、昭和12年には東洋一と謳われた東山動植物園が造られました。この時の名古屋市の姿を描いた絵の「田代土地区画整理組合鳥瞰図」を読み解きながら、名古屋の町の歴史を学び、その魅力を再発見します。

**第6回 航空機名古屋の展開と戦後民需転換**  
2018年 2月20日(火)

会場 北文化小劇場 [297席] 052-910-3366  
地下鉄名城線「黒川」下車 4番出口から北へ徒歩12分

講師 笠井 雅直  
名古屋学院大学教授

戦前の軍需工業都市名古屋の中心は航空機産業であり、航空機名古屋とも言われる。三菱重工業名古屋航空機製作所と愛知時計電機(愛知航空機)は、日中戦争以降、劇的な拡張を遂げる。航空機生産の集積によって名古屋は「帝国枢要ノ地」となる。敗戦によって、戦後は、一転して、二輪車・三輪車・バス事業が航空機メーカーの主戦場となるが、朝鮮戦争によって三菱名航は航空機生産を再開し、名古屋は航空機開発・生産の拠点となった。

**第7回 狐と人との結婚**  
2018年 2月27日(火)  
-名古屋市南区鹿島稲荷社の伝説を中心に-

会場 港文化小劇場 [350席] 052-654-8214  
地下鉄名港線「港区役所」下車 1番出口から南へ徒歩3分

講師 永田 典子  
中部大学教授

鹿島稲荷社の伝説によれば、建立者の久太夫の妻は狐の化身で、狐は姿を消す際に一晩で田植えをし、その年はこの田だけが豊作だったといわれます。狐が人と結婚する話は、既に平安時代の『日本霊異記』にあり、江戸時代には安倍晴明を狐の子とする人形浄瑠璃や歌舞伎が演じられており、現在も昔話として各地で伝承されています。なぜ狐が人間と結婚する話が伝承されてきたのか。この問題を鹿島稲荷社の伝説を中心に考えてみたいと思います。

料金など **入場無料** **要チケット**

- ▶12月12日(火)から各会場窓口ははじめ文化振興事業団各施設窓口でチケットを発券します。
- ▶チケットがなくなり次第発券を終了します。
- ▶開場は各講演会開始の30分前です。
- ▶当日の空席状況につきましては、各会場へお電話にてお問い合わせください。
- ▶ご来場の際は、公共交通機関をご利用ください。